

⑥2 県道 里根神岡上線 バイパス整備事業

受賞機関 茨城県 高萩工事事務所

キーワード 安全・安心、リダンダンシー

全建審査委員会の評価ポイント

東日本大震災時に津波により通行止めとなった国道6号を、災害時に茨城県北部で代替する県道のバイパス整備事業。

津波等の影響による6号の浸水対策に備え、国が進める勿来バイパス区間と一体となった整備を速やかに行うことで、代替性の確保による安全性向上が評価された。

1. はじめに

県道里根神岡上線は、茨城県最北部に位置する北茨城市内を南北に通る一般県道である。平成23年3月に発生した東日本大震災においては、本路線と並行する国道6号が津波による浸水で通行止めとなり、復旧活動に支障をきたすこととなった。こうした点も踏まえ、国道6号の代替機能を有する道路として、延長2kmの県道里根神岡上線バイパスが震災復興事業として整備されることとなり、平成29年6月2日に全線の供用を開始した。



位置図



震災時の国道6号

2. 事業の概要

大規模災害時には、人命にかかわる救援支援活動や物資輸送活動を円滑に行ううえで、防災拠点間を相互に連絡する『緊急輸送道路』が大きな役割を担う。茨城県では、緊急輸送道路ネットワークの機能を確保するため、『復興みちづくりアクションプラン』を策定し、その中で本路線はL2津波による浸水想定区域内の緊急輸送道路（国道6号）の代替路として位置付けられた。

茨城県では、平成24年1月に本路線の整備に着手し、行政（茨城県・北茨城市）と地権者や地域住民が震災か

らの復興という共通のテーマで協力し、震災からわずか6年で全線開通することができた。

3. 事業の成果

この開通により、国道6号の代替機能が確保されるとともに、既に供用している県道や市道と一体となって、茨城県北部沿岸部における新たな南北軸を形成し、地域の発展にも寄与することとなった。

また、周辺地域から第二次救急医療機関である『北茨城市民病院』へのアクセス時間が短縮されたことから、広域医療ネットワークの強化も図られた。



完成状況

4. おわりに

本路線は、現在整備が進められている国道6号^{なこそ}バイパスと直結し、将来的には関東地方と東北地方をつなぐ緊急輸送道路ネットワークの代替路の一部を構成するとともに、混雑する国道6号の現道交通の受け皿となることから、観光地へのアクセス向上など、北茨城市のみならず、周辺地域の発展にも一層貢献することが期待される。

賛助会員 開発虎ノ門コンサルタント(株)、川田建設(株)、(株)協和コンサルタンツ、サコー建設(株)、(株)菅原工務店、大日本コンサルタント(株)、大北産業(株)、(株)大和設計、東海建設(株)、(株)東京建設コンサルタント、(株)長谷川工務店、(株)フィールド・マップ